



Title	明治維新前に於ける北海道耕種現象發展の年代的考察
Author(s)	南, 鐵藏
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 7, 195-222
Issue Date	1939-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/10669
Type	departmental bulletin paper
File Information	7_p195-222.pdf



明治維新前に於ける北海道耕種現象

發展の年代的考察

南 鐵 藏

一 序 言

十九世紀に於ける歴史科學發達の結果セノボル Xenopol も一般科學を理論的（反覆的事象科學）と歴史的（繰返さざる繼續的事象科學）とに二分せし程なる歴史科學は吾人は時間的なる文化科學中の特に時間的を以て特徴とする一部門なりと解するが其歴史的なる研究者の視野は我國にては明治二十年頃日本歴史學派なるものを萌芽せしめ、以來殊に輓近に至りて種々なる方面より我が國固有文化の見直しとして今尙其完成への過程を辿りつゝ努力して居る。

本稿は筆者が我國北方文化の一として「明治維新前に於ける北海道綜合經濟史の研究」と題し、日本學術振興會の援助の下に纏めつゝある研究過程の一部たるべきものであり且つ一資料である。一資料といふは今尙未完稿に屬し其取扱が最後の確定に迄到らざるが故である。

文化の定義、従つて經濟文化の意義の如何なるものなりやは曩に本誌第四輯に於て之を論述したるを以て此處には之を贅言せずとなすも、蓋し文化の一部門たる經濟は人間生活の根柢を成すものなる事は此處に多辯を要し

ない。而して其範疇としての農業は我國としては神代より少くも明治に至る迄は民間の基本的生業たりし地位を有せし事も亦疑ふ可くも無い。耕種は即ち此農業なるものゝまた本源的なるものである。

耕種 Tillage, Plant culture とは佐々木喬博士の説に依れば「田畑を耕し、之に作物の種子を播き栽培する事であり養畜と相對稱される」を謂ふ。此に依つて之を觀れば「耕種」の現象は之を「耕地」と「作付」との相聯關せる二大分野に於て考察が爲され得ると共に農業が大凡此作用に出發し、大略は此作用に終りて其運命を決し、此二大分野を度外視しては農業は全く解し得ざる程基礎的なる作用たる事に氣付くであらう。これ耕種が農業の本源なりといふ所以である。本稿は即ち斯かる農業上の地位を占むる耕種に關し明治維新前に於ける北海道の農業上に之を觀んとするものである。

併し乍ら本稿に「耕種」なるものゝ考察は經濟史の範疇に於ける農業史に於てであるが故に單に超時間的自然科學的研究過程中に取扱はれしものならざるは勿論經濟と同じく時間的なる文化科學の一部門にして而も特に「時」の觀念を以て特徴とせる近代の發展（發生）的史學觀念に従へる歴史過程の一に屬せしめての考察である。發展の歴史研究に於ける理念到達の技術的方法論としては先づ史的聯關が認識せられ、而る後其聯關の特質の時間的變遷系列を系統的發展的に觀察しなければならぬ。此史的聯關に最も重要なものは「時・處」の觀念である。如何となれば「時・處」は史的聯關と堅く結びつけられ、史的聯關は之に依つて決定せられ、此觀念なくしては史的聯關も従つて史的發展も全く解し得られざるに到るが故である。明治維新前本道の發展の農業史の考察を爲さんとする場合に當つても且又然りである。翻つて「耕種」に關する前述の説明に於て之を「耕地」と「作付」との相聯關せる二大分野に於て觀る事を得ると爲したるが、今本道農業史上に此二大分野を取扱ふとせば維新前古人が農耕活躍舞臺として足を印せし本道耕作地の跡は舊に上述せる作物生育上の重要性のみに止まらず本道農業史的聯關に於ける所謂「時・處」中の「場所」としての意義に於て又等しく重要性を有ち、此種研究過程中に

は必ずや此方面の觀察が決定的に要求せらるべきものであり、此觀念なくしては本道農業史は全く理解せられざる所の重要性を有つ。次に史的聯關として要求せらるゝは「如何なる事を爲したるか」の事項である。之を農業史上に觀する時は「作付」は最も基本的な對象となつと思ふが、本道農業史研究過程としても亦同然である。「作付」の發展を觀察する標準としては種々の方面より多様の方法の下に之を爲し得るであらう。殊に面積や收穫量に據つて之を觀るも極めて至當でもあらうが、然し乍ら何れを以てしても此等の狀態を年々の之を需めんと欲して一、二の例外の外は夢想だに得可からざる往時の事に屬す故を以て唯々有り得る文獻に就いての記録に従ふより途は無いのである。若し然りとして考察を進むるとすれば我國に於ては或は之を耕地の上に觀たる「田作」「畑作」の二大部類を以てするも可能であらう、或は又作付作物の種類を以てする事も亦便なりと思ふ。本稿に於ては即ち此兩者を用ひ先づ大局より田畑に就き之を觀、更に之に栽培せる作物の種類を以てした。次は「如何なる方向に」の問題である。史的聯關に於ては同じ目的を有する同類を傾向と稱するが耕種に現はれたる餘り異變の無き期間を大凡一括して之を同種の傾向と看做し一年代と假定した。

斯くの如くして本稿は明治維新前に於ける北海道經濟史の範疇に屬する本道農業史研究過程に於ける耕種に關し耕地並に作付に就き田作畑作の何れより又如何なる地方（又は地帶）より如何に發展し來りたるか又畑作は如何なる作物の種類に於て發展を觀たるかを以上の意義の上より年代的に考察せんとするものである。此の考察の基礎として先づ維新前北海道に於ける耕地並に作付の編年誌を舊記に基き項を改めて左に試る事と爲す。

二 耕種編年誌

例言

一、左記括弧中の和とは和人地、夷とは蝦夷地を指す。和・夷地境は西海岸は熊石、東海岸は文化初年迄は龜田、

其以降は山越内とす。

二、同じく括弧中

西南……とは本島南端福山城下より本島西海岸の中央部たる雄冬岬(往昔此處を以て西海岸口蝦夷地と奥蝦夷地との境とせり)迄の海岸を指す。

西北……とは本島西海岸中央部たる雄冬岬より北端宗谷迄の海岸を指す。

南……とは福山城下より本島東海岸中央部たる襟裳岬(往昔此處の幌泉を以て東海岸口蝦夷地と奥蝦夷地との境とせり)迄の海岸を指す。

東……とは本島東海岸中央部たる襟裳岬より北方知床岬迄の海岸を指す。

北東……とは宗谷より知床岬に互る本島北方海岸を指す。

三、記年に例へば寛政一—三年とある場合は當しく寛政一年より始まり同三年迄繼續し此年に至つて終止したる時も斯く記し、又假令寛政一年以前より始まり居り同三年以降更に之が繼續し居るならんと想像されても、現實に史料に其記載無き限り同じく之も寛政一—三年と記し、史料の説明又は史料取扱の前後の關係に於て當然又は明かに記年の前後に現象せる事が推知せらるゝ場合に限り矢印(↓)を附して之を示した。然し多くの場合紀行者の目撃せし年のみが強ち耕作のありし年とは限つては居らず其年の前後尙斯かる現象は存在し居たるものならんことを想像せしむ。

尙各村落の地理的位置を標準づける爲に地圖代用として寛政三年東蝦夷地道中記・同九年松前藩士高橋壯四郎外三名編松前地並東西蝦夷地明細記・文化三年遠山村垣西蝦夷日記・安政三年蝦夷實地檢考錄・明治二十四年永田方正北海道蝦夷語地名解等を參酌し松前(福山)城下より北方への順に大略の所付を左に示す。

西南……福山・根部田・札前・赤神・兩垂石・茂草・清部・江良町・原口・小砂子・石崎・羽根差・汐吹・扇石・木ノ子・シネコ崎・大安在野・原歌・上ノ國・目名ノ澤(陸)・北村・御勝手・江差・泊・小山・田澤・土橋(陸)。

厚澤部(同)・俄野(同)・安野呂(同)・下目名(同)・上目名(同)・小黑部(同)・鹹川(同)・山崎(同)・伏木戸・五厘澤・乙部・小茂内・大茂内・突符・三ツ谷・蚊柱・相沼内・泊川・見市ミヤチ・相泊・平田内・熊石・關内・貝取潤・久遠・太田・太櫓・せたなま・島小牧・壽都・歌葉・磯谷・岩内・古宇・積丹・美國・古平・余市・路忍・しくずし・小櫓・石狩・厚田・濱益

西北……雄冬岬・増毛・留萌・鬼鹿・苫前・羽幌・遠別・天鹽・拔海・宗谷

南……福山・下及部・上及部・荒谷・白神岬・禮髭・吉岡・宮歌・白符・福島・釜谷・知内・木古内・札刈・泉澤・釜谷・三石・當別・茂別・富川・尻澤邊・一本木・千代田(陸)・鍛冶(陸)・三ツ谷(同)・戸切地(同)・

有川(同)・濁川(同)・文月(同)・大野(同)・本郷(同)・市ノ渡(同)・峠下(同)・上山(同)・赤川(同)・大川(同)・

七重(同)・藤山(同)・桔梗(同)・軍川(同)・箱館・龜田・下湯ノ川・上湯ノ川・志苔・錢龜澤・汐泊・石崎・

小安・釜谷・汐首岬・戸井・尻岸内・古武井・惠山岬・根法華・尾札部オシ・河汲カキ・白尻・床呂・砂原サハラ・もり・鷺木・

茅部モカシベ・茂無部モナシ・落部オシ・野田道・山越内・ゆしらつぷ・山崎・くんぬい・紋別・おしやまんべ・ほろない・しづ

かり・禮文・あぶた・うす・もんべつ・もろらん・わーべつ・ほろべつ・白老・勇拂・あつま・むかわ・さる

ふと・門別・厚別・新冠・しつない・三石・浦河・幌別・様似・幌泉

東……襟裳岬・びろう・とかち・おんべつ・白糠・しよろ・釧路・厚岸・霧多布・納沙布岬・根室・幌茂尻・

別海・野付・知床岬

北東……知床岬・斜里・網走・能取岬・常呂・湧別・紋別・さるゝ・おこつへ・澤木・雄武・幌内・枝幸・幌別・

鬼志別・宗谷

又年表中作物の品名は、なるべく原文のまゝを使用せしを以て理解の便に充てんが爲に左に註記す。

蘿蔔(又は蘿菔・萊菔)又蘿苧も同義か||大根

寶永七年頃 松前(城下近)畑(在?) 粟・稗・大豆・小豆・大角豆・瓜・茄子等少々。和内地及和夷地境畑。

正徳五年頃 「セタナイ、フトロ、シマコマキ、スツツ、オタスツツ、イリヤ、フルウ、シヤコタン、ヒクニ、フルヒラ、シクツシ」(夷)畑(西南) 粟。 「オシヤマンベ、ノタへ、ウス、エトモ、シラライ」(以上)畑(西南) 粟。

享保一年 蝦夷地畑(西南) 雜穀。

享保二年頃 松前西東畑 粟・稗・大豆・小豆・牛蒡・大根・瓜・茄子・雜穀・麻・多葉粉。龜田(和)畑 馬

大豆。蝦夷地畑 粟稗。

享保十七年 江差(和)畑(西南)。

元文に近き頃 松前畑 人参。オヨベ(和)畑(南)。龜田(和)畑(南)。

元文三年 松前畑 早麥・粟・稗・蕎麥・大豆・小豆・茄子・瓜。蝦夷地畑 蝦夷稗・粟。

元文四年 寛保一年 福島(和)畑(南)。

元文四年 大野(和)畑(南)。

元文・寛保頃 寶曆頃 シリベツ(夷)畑(西南)。イソヤ場所。

延享三 寛延一年 福島(和)畑(南)。

寛延一年頃 戸切地(和)畑(南)。

明和末期二・三年間 及部(和)畑(南)。

明和年間より約四十年間 大野(和)畑(南) 粟・赤米・早稻。

安永八年 天明一年 福島(和)畑(南)。

天明四年頃 松前畑（和）粟・稗・大麥・小麥・蕎麥・胡麻・荏・菜種・芥子・野菜・蘿蔔・胡蘿蔔・瓜・西瓜。

天明四年頃 蝦夷地畑（和）粟。

天明四（五）年頃 一之渡（和）畑。

天明六年「江夏町、原口、石崎」（以上和）畑（西南）雜穀。

天明八年—寛政二年 山越内（和）畑（西南）蕎麥・麥・菜種・大根・蕪・からしな・茄子・胡瓜・とうがらし・さゞげ・さといも・煙草。長萬部（同上）畑（西南）粟・麥・蕎麥・大角豆・荏・菜種・大根・蕪・なつ葉・人參・ねぶか（ねぎ）

唐からし・紫蘇・唐なす・胡瓜・まうり・夕顔・高黍・胡麻・煙草。禮文慶（同上）畑（西南）粟・麥・蕎麥・菜種・大根・蕪・からしな・人參・胡瓜・夕顔・西瓜・眞瓜・まきは瓜・とうなす・さゞげ・荏・胡麻・さといも・麻・煙草。安武田（同上）畑（西南）粟・麥・蕎麥・菜種・大根・からしな・茄子・唐なす・胡瓜・夕顔・西瓜・眞くは・大豆・小豆・さゞげ・高黍・煙草。宇須（同上）畑（西南）粟・麥・蕎麥・菜種・大根・蕪・からしな・胡瓜

大豆・荏・大角豆・高黍・煙草・麻・けし。毛呂蘭（同上）田畑（西南）粟・麥・蕎麥・菜種・大根・胡瓜・大豆・小豆・荏・大角豆・高黍。へケレウタ（同上）畑（西南）粟・蕎麥・菜種・なつ菜・大根・瓜・胡瓜・夕顔・西瓜・眞くは瓜・冬瓜・大豆・小豆・大角豆・荏・高黍・胡麻・煙草・麻。保呂別（同上）畑（西南）粟・麥・蕎麥・菜種・大根・蕪・からしな・人參・からしな・夏菜・胡瓜・夕顔・西瓜・眞くは・瓜・さといも・小豆・さゞげ・荏・高黍・煙草。

白老（同上）畑（西南）粟・麥・蕎麥・菜種・大根・蕪・からしな・人參・さといも・煙草。

寛政二年 江差近在（和）畑（西南）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏・其他。「厚澤部、安野呂（和）畑（西南）上ノ國（和）畑（西南）木古内（和）畑（西南）濁川、文月、大野、一野渡、上山、七重（和）箱館（和）畑（西南）箱館近在畑（和）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏其他。錢龜澤（和）畑（西南）。

寛政二年 江差近在（和）畑（西南）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏・其他。「厚澤部、安野呂（和）畑（西南）上ノ國（和）畑（西南）木古内（和）畑（西南）濁川、文月、大野、一野渡、上山、七重（和）箱館（和）畑（西南）箱館近在畑（和）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏其他。錢龜澤（和）畑（西南）。

寛政二年 江差近在（和）畑（西南）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏・其他。「厚澤部、安野呂（和）畑（西南）上ノ國（和）畑（西南）木古内（和）畑（西南）濁川、文月、大野、一野渡、上山、七重（和）箱館（和）畑（西南）箱館近在畑（和）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏其他。錢龜澤（和）畑（西南）。

寛政二年 江差近在（和）畑（西南）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏・其他。「厚澤部、安野呂（和）畑（西南）上ノ國（和）畑（西南）木古内（和）畑（西南）濁川、文月、大野、一野渡、上山、七重（和）箱館（和）畑（西南）箱館近在畑（和）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏其他。錢龜澤（和）畑（西南）。

寛政二年 江差近在（和）畑（西南）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏・其他。「厚澤部、安野呂（和）畑（西南）上ノ國（和）畑（西南）木古内（和）畑（西南）濁川、文月、大野、一野渡、上山、七重（和）箱館（和）畑（西南）箱館近在畑（和）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏其他。錢龜澤（和）畑（西南）。

寛政二年 江差近在（和）畑（西南）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏・其他。「厚澤部、安野呂（和）畑（西南）上ノ國（和）畑（西南）木古内（和）畑（西南）濁川、文月、大野、一野渡、上山、七重（和）箱館（和）畑（西南）箱館近在畑（和）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏其他。錢龜澤（和）畑（西南）。

寛政二年 江差近在（和）畑（西南）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏・其他。「厚澤部、安野呂（和）畑（西南）上ノ國（和）畑（西南）木古内（和）畑（西南）濁川、文月、大野、一野渡、上山、七重（和）箱館（和）畑（西南）箱館近在畑（和）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏其他。錢龜澤（和）畑（西南）。

寛政二年 江差近在（和）畑（西南）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏・其他。「厚澤部、安野呂（和）畑（西南）上ノ國（和）畑（西南）木古内（和）畑（西南）濁川、文月、大野、一野渡、上山、七重（和）箱館（和）畑（西南）箱館近在畑（和）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏其他。錢龜澤（和）畑（西南）。

寛政二年 江差近在（和）畑（西南）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏・其他。「厚澤部、安野呂（和）畑（西南）上ノ國（和）畑（西南）木古内（和）畑（西南）濁川、文月、大野、一野渡、上山、七重（和）箱館（和）畑（西南）箱館近在畑（和）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏其他。錢龜澤（和）畑（西南）。

寛政二年 江差近在（和）畑（西南）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏・其他。「厚澤部、安野呂（和）畑（西南）上ノ國（和）畑（西南）木古内（和）畑（西南）濁川、文月、大野、一野渡、上山、七重（和）箱館（和）畑（西南）箱館近在畑（和）粟・稗・蕎麥・菜種（菜種）大根・大豆・小豆・角豆・荏其他。錢龜澤（和）畑（西南）。

寛政二(三)年頃 蝦夷地畑和蔬菜。

古來より寛政三年頃「ノソベ。オリベ」(和 西南)畑。

寛政三年「下及部、上及部」(和 西南)畑和蔬菜・大根類。毛尻川野邊(和 西南)畑。知内(和 西南)畑。木古内(同上)畑和粟

大豆。札刈、泉澤、釜谷、當別(和 西南)畑。茂戸地(和 西南)畑和大豆・小豆・蕎麥。飛川(和 西南)畑。「三ツ谷、大

野、カサイシヨ、市野渡」(和 箱館 筋陸)畑。龜田(和 西南)畑和粟・稗・蕎麥・菜・大根・荳。ノタヲイ場所(同上)畑。ホロ

ベツ場所(同上)畑和粟・稗。トカチ場所山住夷十二部落(同上)畑和粟・稗。アツケシ(同上)畑和稗。

寛政末期 木古内(和 西南)畑和粟・稗・蕎麥・大豆・小豆・野菜・煙草。札刈(同上)畑和粟・稗・蕎麥・大豆・小豆

野菜。泉澤(同上)畑和粟・稗・蕎麥・大豆・小豆・野菜。「釜谷、三石」(同上)畑和粟・稗・蕎麥・大豆

小豆・野菜。當別(同上)畑和粟・稗・蕎麥・大豆・小豆・野菜・茂邊地(同上)畑和粟・稗・蕎麥・大豆・野菜

煙草。富川(同上)畑和粟・稗・蕎麥・大豆・野菜。尻澤部(箱館筋 内陸)畑和野菜。鍛冶(同上)畑和粟・稗・蕎麥・

大豆・野菜・煙草。三谷(同上)畑和粟・稗・蕎麥・大豆・小豆・野菜・煙草。「戸切地、有川」(同上)畑和粟

稗・蕎麥・大豆・小豆・野菜。濁川(同上)畑和粟・稗・蕎麥・大豆・小豆・大角豆・野菜・煙草。文月(同上)

畑和粟・稗・蕎麥・大豆・小豆・野菜・煙草。大野(同上)畑和粟・稗・蕎麥・大豆・野菜・煙草。大川、市渡

七重(同上)畑和粟・稗・蕎麥・大豆・小豆・野菜・煙草。上山(同上)畑和粟・稗・蕎麥・大豆・野菜・煙草。

龜田(和 西南)畑和粟・稗・蕎麥・大豆・小豆・大角豆・野菜・煙草。箱館近郷(和 西南)畑和野菜。「下湯ノ川、上湯ノ

川」(同上)畑和粟・稗・蕎麥・大豆・小豆・野菜・煙草。錢龜澤(同上)畑和粟・稗・蕎麥・大豆・野菜。石崎

(同上)畑和粟・稗・蕎麥・大豆・野菜。

寛政九年「江良町、石崎、木ノ子」(和 西南)畑和雜穀。大アンサイ(同上)畑。「上ノ國、トカフ」(同上)畑和雜穀

畑。「北、江差、泊り、小山、田澤、伏木戸」(和 西南)畑和雜穀。厚澤部(和 西南)畑和雜穀「五輪澤、乙部、

小茂内、相沼内、泊川(和西南)畑||雜穀。ハキチヤリ(福島・知内間)「福島、知内、札刈、茂邊地、富川、下湯川、上湯川」(和南)畑||雜穀。「龜田、鍛冶、三ツ谷、戸切地、有川、濁川、文月、大野、一ノ渡、上山、七重」(和南)畑||雜穀。

寛政十年1799 松前城下西東三四十里内在々畑||粟・稗・麥・野菜。「一ノ渡、フヂ山・クネベチ山」(一ノ渡村字)(和南龜田筋陸)畑。

寛政十一年—文政四年 厚澤部(和田西南)畑||粟・稗・蕎麥・大豆・小豆・大根・牛蒡・葱・百合・瓜・茄子。
 寛政十一年 茂邊地(和東南)畑||稗・蕎麥。有川及び同村筋七重川・龜田川(同上)畑、「濁川、文月、大野、一ノ渡
 上山、七重」(和南)畑。錢龜澤(和南)畑。

寛政十二年↓箱館近在田。1800

寛政十二年—文化初期 勇拂(夷南)開墾。白糠(夷東)畑||蕎麥・豆・小豆・角豆・大根。

享和一年 ヤムクシナイ(夷南)畑||粟・稗・蕎麥・大根。宥埜普(トウラツ)(同上)畑||蘿苣。ウス(同上)畑||粟・稗・菜・大根。エトモ(同上)畑||野菜。ホロボツ(同上)畑。シラライ(同上)畑||粟・稗。「勇拂、武川、サルモンベツ」

(同上)畑。ニイカツ(同上)畑||粟・稗・大豆。シツナイ(同上)畑。巴拉トウ(同浦河場所)シヤマニ(夷南)畑||岡穂・早苗・粟・稗・麥・蕎麥・大豆・小豆・小角豆・菜・大根・茄子・とうなす・胡麻・紅花・麻・藍。シラ

ヌカ(夷東)畑||粟・稗。

享和二年 松前城下↓茄子・大根・牛蒡。箱館近在田。畑。武川場所(夷東南)畑||粟・大麥・小麥・蕎麥・大豆・小豆・黑豆・菜種・大根。白糠場所(夷東)畑||粟・稗・大麥・蕎麥・大豆・小豆・隠元さげ・ねぎ・菜種・大

根・五升芋。

享和三年 鹹川(和西南) 畑(和西南) 大豆・小豆。

文化一―三年中 一ノ渡―大野田。

文化一年―安政三年 一本木(和東南) 田・畑。「千代田、文月」(和箱館筋陸) 田・畑。本郷(同上) 田・畑。粟・稗・

大豆。市ノ渡(同上) 田・畑。粟・稗・蕎麥・大豆・小豆。峠下(同上) 田・畑。

文化一年 モロラン(和南) 畑。

文化一―三年中 武川(和南) 畑。粟・稗・煙草。

文化二年 「文月、本郷」(和南) 田・畑。

文化三年 清部(和南) 畑。稗。江良町(同上) 畑。前々は粟・稗、近年は野菜。木ノ子(同上) 山畑。野菜。上ノ國

(同上) 畑。山手粟・稗。北村(同上) 畑。五勝手(同上) 畑。粟・稗・蕎麥・野菜。「土橋、俄野、安野呂、鹹川

厚澤部」(和西南田澤) 畑。土橋(和西南) 畑。粟・稗・蕎麥・大豆。乙部(和西南) 畑。野菜・雜穀。「小茂内

大茂内、突符、三ツ谷、蚊柱、相沼内、泊り、相泊」(和西南) 畑。千代田(和南) 田・畑。ヒラタナイ(和西南)

畑。野菜。釧路(和東) 畑。蔬菜。

文化四年 一本木(和南) 畑。「千代田、中野、長はし」(和同上) 田。箱館在田。

文化五年 蝦夷地畑。黍・蕪菁・蘿苧。鬼鹿(和東北) 畑。蘿蕪・茄子類。

文化六年 知内(和南) 作場。「有川、一本木、千代田、大野、本郷」(和南) 田。「下ムカワ(和南) クスリ(和東)」畑

文化八(九)年頃 中野郷(和箱館附近) 田。

文化度―安政一年 「一本木(和南)、千代田、大野」(和南) 田。

文化文政の交？ 七重(和南)箱館筋陸 畑||人參。

文化年間 蝦夷地畑||稗・黍。「ヲ、チャロツへ、シンカー、ハンケヲチャウシ、ハンケヲサウシ、セホツナイ」

(以上夷) 西南 畑。「シリキシナイ―サル邊(夷南) 畑||粟・蝦夷稗・大根・蕪・菜。
(セタナイ場所)

前幕領(寛政十二年より) 中―安政五年 へんけサカイマフ(夷南) 畑||粟・稗・大根・蕪・胡瓜・大豆・小

豆・隠元豆・黍。

文政三―十二年頃 シリベツ(夷南) 畑。
(イッヤ場所)

文政五年 「札刈、泉澤、釜谷、三ツ石、當別(和南) 畑。一本木(和南) 田。千代田(和南) 田。「鍛冶、三ツ谷、

戸切地、有川(同上) 畑。中野(箱館近在) 田。濁川(箱館) 畑。文月(同上) 田。畑。「稻生(同上) 大野」

(箱館) 畑。本郷(同上) 田。市野渡(同上) 畑。峠下(同市野渡支村) 田。上山(箱館) 畑。栖原(同上) 田。大川

(筋陸) 畑。七重(同上) 田。畑。藤山(同七重支村) 田。「龜田。下湯ノ川、上湯ノ川、錢龜澤、石岐、小安(和南) 畑。

文政九年 シノリ(和南) 田。
(錢龜澤近在)

天保四年 江差(和南) 田。畑||大豆・小豆・五升芋。

天保四―七年 五勝手(和南) 畑||蕎麥・馬鈴薯。

天保四年 「石別、釜谷(和南) 畑||豆。

天保四、七年 一本木(和南) 田。「千代田、文月、大野、本郷、一ノ渡(龜田) 田||稗・畑||粟・蕎麥・麥・大豆・

小豆・馬鈴薯。

天保四年 「桔梗、赤川、大中山、石川(箱館筋陸) 畑||粟・稗・麥・大豆・小豆。「茅部、山越内邊(和南) 畑||蔬

菜・馬鈴薯。「貝取澗、平田内(夷南) 畑||粟・稗・蘿蔔。

天保五(六)年 江差(和南) 畑。

天保五年 太田(夷西南) 畑||粟・稗・馬鈴薯。

天保六年 江差畑||麥・雜穀。龜田(和南) 畑||野菜・穀物。「鍛冶、神山」(箱館筋陸) 畑||野菜・穀物。

天保七年 「龜田、神山、鍛冶」畑||人参・大根・茄子・野菜。太櫓(夷西南) 田畑。

天保八年 「龜田、鍛冶、神山」畑||人参・大根・茄子・野菜。

天保九年 箱館附近田||稗・畑||粟。東蝦夷地一帯畑||粟・稗・青物。「ヤムクシナイ」(東夷地境南) よりユウブツ

(夷南) 畑||粟・稗。サル場所邊(同上) 畑||大豆。會所のせんさい畑には何れも青物類を作ると言ふ。

天保十三年—安政三年 中野郷(箱館近在戸切地支村) 田||稗。

天保十三年—弘化二年 濁川(箱館筋陸) 田・畑。

天保頃? 大島(和西江良町村沖に在り) よりシンコ崎(和西南、上の國のシネコ崎?) 邊迄の村々畑||青物。

天保年間 「知内(和南)、小谷石(箱館近在)」畑||馬鈴薯・蘿蔔。茂邊地(同上) 畑||蔬菜・馬鈴薯。「七重、靄野、藤

城、峠下、軍川」(以上箱館筋陸) 畑||粟・稗・麥・大豆の類。

弘化二年? ラシヤマンベ(夷南) 畑。ワラビタイ(ラシヤマ筋陸) 畑||甜瓜。

弘化三年 中野郷(箱館附近) 田||稻。

弘化四年 大野(箱館筋陸) 畑||大豆・蕎麥。

嘉永三年 大野田||稗(稻と作替)。

嘉永四年—慶應 大野田。

嘉永年間 中野郷田||稻。

安政一年 江良町(和西南) 菘・菽・蘿蔔。「江良町より汐吹」間處々粟・稗・蕎麥・菘・菽・赤豆。五勝手(同上)

明治維新に於ける北海道耕種現象發展の年代的考察

畑||蕪菁・菜・瓜・茄子・南瓜。「江差より乙部間處々」(同上)田・畑||粟・稗・蕎麥・瓜・菽・菜豆。「大野峠下」(函館)耕作。オタスツ、イリヤ」(西南)邊畑||粟・稗・大根・菘・大豆。マシケ(西北)畑近年茄子・菜菔・胡瓜・小豆・隠元豆。ル、モツベ(ルモ) (同上)畑||紅豆類・蘿蔔。トマイ(同上)畑||粟・稗・インゲン豆・黍・大根・御所芋。

エサシ(東北)畑||蔬菜。

牟加和(南)畑||粟・稗。佐留武董(同上)田畑の内粟・稗、畑||蔬菜。阿子計志(東)畑||粟・蕎麥・菽・蘿蔔・

南瓜。

安政二年—文久一年 炭燒澤(北村字)畑。福島より二里(和)畑。「梶(鍛冶)、大野、赤川」(箱館)田・畑||野

菜・菓瓜。龜田(和)田・畑||野菜・菓瓜。箱館表・其近在野菜。「下湯ノ川、上湯ノ川」(南)田。錢龜澤(同上)

田・畑||粟・稗・蕎麥・大豆・小豆・菜・胡瓜・大根・瓜類・煙草。砂原(南)畑||大豆・蕎麥・野菜・雜穀。

「サル、ニイカツ」(南)畑||粟・稗・大豆・小豆。

ネモロ(東北)畑||大根。

ノツケ(東北)畑||粟・稗・麥・蕎麥・豆・黍・蘿蔔・胡瓜・葱・韭・茄子・薯蕷・煙草。

アバシリ(東北)畑||粟・稗・蕎麥・蘿蔔・瓜。

安政三年 札前(和)畑||豆類・大根。「清部、江良町」(同上)畑。「上ノ國、木ノ子」(同上)畑。熊石(同上)

畑||大豆・小豆・大根・牛蒡。木古内(南)畑。札刈(同上)畑||粟・稗・大豆・小豆。「泉澤、釜谷、三石、茂

別、富川、中野」(同上)畑。

安政三十五年 木古内(南)田?三ツ石(同上)田。

安政三年 一橋(箱館) 「大野、七重、上山」(同上) 田・畑。龜田(和南) 田。石川澤(龜田附) 開墾。 「錢龜澤、石崎」

(和南) 畑。鷲木(同上) 粟・稗・蕎麥。落部(同上) 畑||粟・稗。 「野田追、茂梨部、山越内」(同上) 畑。忍山部オシヤマノベ

(東南) 田・畑||粟・稗・大豆・小豆・(夷は菜)。

安政三―五年 「セタナイ、ヲタスツ」(夷西南) 畑。

安政三年 歌鈴畑。

安政三―五年 ノタヘツ(夷西南 磯谷場所)

安政三年 掘株(夷西南 岩内場所) 田||米(稗?)・糯。畑||粟・蕎麥・大豆・小豆・大根・西瓜・甘瓜。

安政三―五年 ポンイワナイ(同上) 畑。シヤコタン(夷西南) 畑。ヲタルナイ(同上) 畑||粟・蕎麥・大根・黍。イサ

リ(夷陸中 部千歲附) 畑。濱増毛(夷西南) 畑。トエタウシナイ(夷西北ル、モツへ場所) 畑。ホロナイ(夷西北 苦前場所) 畑||雜穀・野菜。

チカクシナイ(同上) 畑。マシケ(同上) 畑||大根・豆類。コヒタナイ(和南ヤマコ シナイ附) 畑。

安政三年 栗ノ木岱(夷南オシヤ マンベ陸) 開墾。

安政三―五年 フレナイ(夷南アブ 薪路多山 タ場所) 田・畑。宇須(夷南) 畑||蔬菜。 「マクロ、ヒイシユンコタン、ヲホナ

イホ、ヘトツル」(宇須場所) 畑。 「トンニカ、イチフミ、イタキシウリ」(夷南ユウ フツ場所) 畑。ハンケトヨマナイ邊(同上)

畑||麻。 「キロ、ヲイ、ムカワフト」(同上) 畑。ホンユクチセナイ(同上 沙流場所) 畑||粟・稗。 「ピラトリ、シユム

シコツ、カバリ、フンカルシ、モトカンビー」(同上 沙流場所) 畑。

安政三年 頓兒加(同上) 畑||豆・黍。

安政三―五年 シユネナイ(同上 カツア場所) 畑||粟・稗・蕎麥・黍。シツナイ(夷南) ちヌエ(同上 ない場所) 畑||野菜・

呱吧芋・雜穀。ルベシナイ(同上) 畑||粟。 「ケナシサン、フユニ、サヌシベ」(同上) 畑。シヨツプ(夷南 三石場所)

畑。「ウンケトイ、イカベツ、ヌブカ」(同浦河場所)畑。ホンナイノツ(同上)畑。粟・稗・黍。ホロボツブト

(同上)畑。シヤマニ(南)畑。オシヤラツケ(同上)畑。粟・稗・隠元・黍・燕・煙草。

東海岸場所の蝦夷シヤマニ迄は皆畑作す。トカチ(東)山畑(夷)。クスリ(同上)開墾。「シヤクベツ、フシナイ

ノコベリベツ」(同上)畑。

安政四年 江良町(和)畑。大豆・小豆。蚊柱(同上)畑。粟・稗・麥・蘿蔔・茄子。木古内(南)畑。茶種。三谷

(箱館)畑。蘿蔔。「加治、大野」(同上)畑。下湯ノ川(南)畑。伊和奈伊(西南)畑。蘿蔔・茄・瓜。「幌似、發足」

(同)畑。田・畑。山崎(和)畑。由宇布津邊(東)畑。チャラセナイ(同上)畑。粟・稗。

シビチャリ(同上)畑。稗。

琴似(夷)畑。

安政五年 熊石(西和夷)畑。

安政五年 慶應 吉田(箱館)畑。田。中島(箱館)開墾。マシケ(北西)畑。小豆・隠元豆・豌豆・茄子・胡瓜

葱・韭・咬啗吧芋。

安政五―七年 栗ノ木岱外三箇所(夷)開墾。

安政五年 慶應二年 フレナイ(夷)畑。登別(夷)開墾。

安政五年 モウセウシナイ(同上)畑(初耕)粟・稗。

安政六年 小黒部(和)畑。鹹川(同上)開墾。濁川(箱館)畑。鶴野(同上)田・畑。桔梗(龜田)田・畑。

安政六年 明治 篠路(夷)田。

安政七年 五勝手(和南)田・畑。レフンケ(夷南ア)畑。

安政以降 松前(城下)及箱館田||稻。蝦夷地運上家番屋等ある所には(胡瓜)少々宛畑に作りたる所多し。

東夷蝦夷畑||紅豆・藍豆・白豆・南瓜・蕃椒・煙草。東蝦夷地シヤマニより西方(西方とは以南の)粟。(海岸を指す?)

以上の史料は原本が明治以前に屬する記録古文書約五百冊、明治以後の調査に係かる刊行物若干を通讀し、左記の文献に於ける記事中より抽出したる所のものである。

寶永七年頃	蝦夷記	松宮觀山
正徳五年	松前志守差出候書付	松前藩
享保二年	松前蝦夷記	有馬内膳外巡見使一行中
同 十六年	津輕一統志	相坂則武・伊藤祐則
元文四年	蝦夷行記	板 <small>(或は坂?)</small> 倉源次郎
安永九年	福山秘府	松前廣長
天明一年	松前志 <small>(卷之六)</small>	同右
同 四年	東遊記	立松東作
同 六年	蝦夷拾遺	山口鐵五郎外一行中
寛政二年	蝦夷草紙	最上徳内
同 三年	東蝦夷地道中記	
同 九年	松前地並東西蝦夷地明細書	
同 九年	北地危言	大原小金吾
同 十年	松前蝦夷地海邊威装上書	中村小一郎
同 十年	未曾有之記	遠山金四郎
同 十一年	休明光記 <small>(卷五)</small>	羽太正發
同 十一年	休明光記附錄卷一	同右

明治維新に於ける北海道耕種現象發展の年代的考察

明治維新に於ける北海道耕種現象發展の年代的考察

同 十一年—文政六年間の記

蝦夷地御用金取調

同 十二年

蝦夷道中記

同 十二年

蝦夷島奇觀

寛政—文政年間の記

松田氏四六筆記

寛政享和頃

松前隨商錄

享和一年

東夷周覽

同 一年

北征日記

同 二年頃

蝦夷日記

同 二年頃

東海參譚

文化二年

東蝦夷紀行

同年頃？

西蝦夷日記

同 三年

松前紀行

同 四年

宗谷よりの書狀

同 四年

終北錄

同 五年

渡島筆記

同 五年

蝦夷渡海記

同 六年

蝦夷産業圖說

文化年間？

北海異談

文化年間？

丙辰雜綴(上記年代の分)

文政五年頃

北陸對問

天保九年

天保凶荒錄

天保年間の記

松前秘說

天保頃？

探暇錄

安政一年

觀國錄(三)

同 一年

村上島之丞
松田傳十郎

藤知文

馬場正通

伊之助・四郎左衛門

東寧元積

山崎半藏

遠山金四郎・村垣左大夫

堀田正敦

館野瑞元

高津泰

樽丸原著間宮林藏增補

同二年	觀國錄(一)	
同二年	蝦夷地土産	庵原 齒齊
同二年	松前紀行	平尾 魯僊
同二年頃	諸産物諸用留	
同三年	松前西蝦夷宗谷各行程記	
同三年	北遊乘	菅野 潔
同三年の調	蝦夷宗地探考錄(卷一・四・七・十七・廿九)	
同四年	蝦夷紀行	
同四年	東徼私筆(下)	
同五年	蝦夷日記	後藤 藤吉
同五年	觀國錄(七)	
安政年間	安政度蝦夷地經營始末	
安政年間	西蝦夷日誌(第一—六編)	松浦竹四郎
安政年間	東蝦夷日誌(第一・八編)	同右
安政以降	蝦夷物産誌	
安政以降	根室舊貫誌	
明治十四年	蝦夷 <small>以俗彙纂</small> (後編)	肥塚 貴正
同二十一年	大日本名譽錄	佐藤 愼策
同二十四年	北海道蝦夷語地名解	永田 方正
大正二年	根室要覽	近藤 龜次郎
昭和二年	舊藩時代の耕地擴張改良事業に関する調査	農 林 省
同四年	北方文明史話	中島 峻藏

以上に依つて知り得る如く其史料とせし文献は大部分紀行文である。紀行文を史料とする場合短所と思惟せらる

ゝは例へば農耕地の記載にしても紀行者が其地を通過目撃してこそ初めて其記録が爲される事であるが若し然らざる場合は例ひ事實に於ては其地に農耕が行はれ居たるにしても之に關する記載従つて作付品種の記載も爲されるを普通とするであらうといふこと、又例ひ之を目撃したるにしても紀行者の意圖に依り又は各別記録せんと意思もなくして自然と若干の耕作地や作付品種の記録洩れもあり得る事であらうといふこと、即ち事實に於ては例ひ耕作は行はれ居り乍らも記録としては何等かの事情に依て耕地や栽培作物品種の記載洩れの場合が無きにしても非ずと思はるゝ點である。然し乍ら、さらばと云つて例ひ僅少なりとも農耕記録が存する文献たる限りは之を直に資料と爲す可からざる無價値のものと速斷棄却するといふ事あらば夫は史家としての執る可き研究態度では無いと思ふ。如何となれば元來古文献なるものは今日の如く科學的研究方法の異常なる發達を成したる時代其研究に供すべき目的を以て調査されたる資料たるとは其趣を異にし、之が資料としての完全さに於ては彼我固より其間大なる逡巡無き能はざるが一般であらう、然れ共斯くした不完全なる文献たりとしても之を以て資料と爲すより他に途なき時代を研究對象とする場合に於ては、其史料と爲し得る程度になりとも之を認めて進めねば研究は全く出發されないことであり、他面又今日と全く事情を異にせる過去の時世の産物を捉へ、之を現代人が恰も現代の研究に適合せる資料の場合に於けるが如く、即ち時代を異にせる過去の文献の史料價値を現代のものと同様の價値に於て之を要求し、同一の取扱を爲さんとするのが抑々の誤謬であり無理なるが故である。例ひ拙撰なる傾向、雜漠なる結果より得られざる往時の紀行文の資料なりとしても、之が存在し、又現存し得るとせば其有せざる場合に比し寧ろ勝るであらう、之を以てしても尙且史的考察に一助を與へ得るならば、例ひ完全さの程度に於て差異有るを免れずとしても其得られざる場合に比するならば以て優れりとしなければならぬと思ふ。以上は一般の古文献的資料に就いてあるが、大部分が往時の紀行文たる上述の資料にしても各年とも殆ど僅か一、二の紀行者の手記より得られず、而も連年の事實も求めらるべき贅澤な餘裕も決して有して居ない。其稀に

得たる一冊の文献中よりしても或は一語を拾ひ、一句を集めて漸く一年宛を規定して行くといふ状態なるが故に従つて之より得られた結果にしても或意味に於ては勿論不十分ではあるであらう、けれ共斯かる資料だにも得るに困難なる今日としては亦己むを得ざる所であり、否又却つて其斯かる稀少性的價值より評するならば史料的部分の乏しきに依ての故に資料的價値の減ずるといふことの見解の當らざるは勿論の事、寧ろ其乏しければ乏しきだけ益々之が存在價値は却て高まるべく、従つて之に依て得られし結果も不完全とは云ひ乍ら亦以て認められなければならぬ強さが此點に見られると思ふ。而して更に翻つて一考するならば尤も或一箇年のみを捉へ觀るに於ては、成る程上述の短所は餘りにも顯著にも見えても來よう、然しながら例ひ隔年的なるにもせよ積年に亘つて之を通觀するならば斯かる短所も或程度迄は相當補はれ大體の趨勢、大略の傾向は必ずしも之に依つて窺ひ知るを得られざるといふ事はないと云ふ事に氣付くのである。

又本資料中には後世の手に成る事歴(例へば明治二十一
年大日本名譽錄)や村誌(例へば昭和二年
農林省編著の分)等も採用したが此等に就ても研究者中には「何ぞや村誌など」と一笑に附する者無しとせざる可きも例ひ「鳥がもの云た」と今日の吾人には考へ及ばれざる不合理な傳説があるとしても之には何等かの據るべき處ありての事にして吾人は夫を緒とこそして史實の探究に分け入らねばならない、斯くして不合理なるものを合理化することこそが形式よりも内容を重んずる文化科學的研究の特色である。況や或程度迄具體的に記述せられたる事歴や村誌等を以て直に無價値視すべき等といふ事は決して吾人の採るべき途では無い、唯要は其時代の人の手記に非ざる作品は然らざるものよりも特に吟味的眼を以て常に當らねばならないといふ所の點である。

以上は北海道の明治維新前に於ける耕種の編年誌と其一考察であるが之に據つて年代的發展區分が如何に評定さるべきか更に項を遷して之を試ん。

三 年代的發展區分の考察

前項の編年誌を基礎とし、之を通觀すれば先づ次の如き發展的年代の區分が考察され得る。

第一期 和入地並東蝦夷地畑作濫觴時代（慶長十八年又は元和―寶曆七中）―延寶。慶長十八年より約七十年間若くは元和より約百四十年間

和入地 福山城下町在

西南 小黒部・鹹川

南 澗内澤・龜田

粟・稗・菜・大豆

蝦夷地 南 〓 カネカルウシナイ・タツコブウシ（浦河場所附）

第二期 和入地田作濫觴時代（貞享―元祿約十五年間）

西南 〓 江差

南 〓 戸切地・文月・龜田

尙此田作の外神山には畑作も見ゆ。

以上に依れば和入地とは稱しても數に於て極めて僅少ではあるが主として南方地方に多く出現を見たと言ふ可きである。

第三期 和入地及中央以南蝦夷地初期畑作時代（寶永―享保初約十年間）

和入地 粟・稗・大豆・小豆・馬大豆・大角豆・瓜・茄子・牛蒡・大根・雜穀・多葉粉（タバコ）・麻。

蝦夷地 西南 〓 セタナイよりシクツシに至る。

南 〓 オシヤマンへ・ノタへ・ウス・エトモ・シラライ。以上「粟」。

當時代南方蝦夷地ノタライ・ホロベツの兩場所や東方蝦夷地十勝・厚岸等の畑作も見えてゐる。

第七期 南蝦夷地畑作漸進及東蝦夷地畑作發生時代(寛政十二年頃—享和三年頃)

南 〓 ヤムクシナイ・ユイラツブ・ウス・エトモ(モロラン)・ホロベツ・白老・勇拂・武川・サルモンベツ・

ニイカツブ・シツナイ・バラトウ・シヤマニ。

東 〓 白糠。

稻・粟・稗・麥・蕎麥・菜・大根・ねぎ・茄子・牛蒡・とうなす・蘿苧・大豆・小豆・黑豆・小角豆・野菜
隠元さゝげ・胡麻・紅花・藍・麻。

本期に於ては以上の如き地方が畑耕作を増して來たが其他の一般地方は大體に於て従前通りと看做して差支無
きであらう。

第八期 南方和入地水田時代(文化年間)

一本木・千代田・有川・文月・一ノ渡・大野・本郷・峠下・箱館近在・中野郷・長はし。

尙此後と雖箱館筋陸入二、三箇村の田作は引續き見受けられる。

第九期 全島聚落畑作普及時代(文化—安政三年)

西海岸地方

西南和入地 〓 札刈・大島(江良町村 沖に在り)よりシンコ崎(上の國のシ)邊迄・清部・炭燒澤・江良町より汐吹・木ノ

子・上ノ國・北村・五勝手・江差・江差より乙部間處々・熊石。

西南蝦夷地 〓 貝取淵・平田内・太田・セタナイ・「ヲ、チャロツヘ・シンカー・ハンケヲチャウシ・ヘンケヲ

サウシ・セホツナイ」(セタナイ場所中)・オタスツ・イソヤ・シリベツ・ノタヘツ(磯谷場所中)・「掘株・

ボンイワナイ」(岩内場所中)・シヤコタン・ヲクルナイ・イザリ(陸)・ハママシケ。

西北蝦夷地 || マシケ・ル、モツベ (留萌) ・トエタウシナイ (留萌場所中) ・トママイ・「ホロナイ・チカクシナイ」 (苫前場所中)。

南海岸地方

南和内地 || 福島・知内・木古内・札刈・泉澤・石別・釜谷・三ツ石・當別・茂別・富川・中野・一ツ橋・千代田・鍛冶・三ツ谷・戸切地・濁川・文月・稻生・大野・本郷・市野渡・峠下・神山 (上山) ・赤川・大川・七重・桔梗野・大中山・石川・鶴野・藤城・軍川・龜田・箱館表・箱館近在・小谷石・下湯ノ川・上湯ノ川・錢龜澤・石岐・石崎・小安・尻岸内よりサル (南蝦夷地) 邊迄・砂原・鷲ノ木・茅部・茂梨部・落部・野田追・山越内・ヘンケサカイマフ (山越内中)。

南蝦夷地 || 尻岸内 (南和内地) よりサル邊迄・山越内より勇拂・コヒタナイ (山越内場所中) ・ヲシヤマンベ・「栗ノ木岱・ワラビ岱」 (オシヤマンベ場所附陸) ・フレナイ (虻田場所中) ・モロラン・ウス・「マクロ・ヒイシユンコタン・ヲホナイホ・ヘトツル」 (宇須場所中) ・「頓兒加」 (トシヨカ) ・イチフミ・イタキシウリ・ハンケトヨマナイ・キロロライ (勇拂場所中) ・サルプト・「ムカワフト・ホンユクチセナイ・ピラトリ・シユムンコツ・カバリ・ファンカルシ・モトカンビー」 (サル場所中) ・ニイカツプ・シユネナイ (新冠場所中) ・シツナイ・「チヌエ・ルベシナイ・ケナシサン・フユニ・サヌシベ」 (シツナイ場所中) ・「シヨツプ・ウンケトイ・イカベツ・ヌブカ・ホンナイノツ」 (三石場所中) ・ホロベツプト・シヤマニ・オシヤラツケ (様似場所中)。

尙天保九年には主として南蝦夷地を指したるべしとは思はるゝも會所のせんざい畑は何れも青物を作るといひ安政以降の状態としては様似 (サマニ) より以南の地方粟作をなすと云へば以て本普及時代の一端を察知し得べし。

東海岸地方

東蝦夷地 || トカチ・クスリ・「シヤクベツ・フシナイ・ノコリベツ」 (クスリ場所中) ・厚岸。

北東海岸地方

北東蝦夷地 || ネモロ・ノツケ・アバシリ・エサシ。

尙安政以降の蝦夷地の状態としては運上家、番屋等ある所には菜菔・胡瓜を少々宛畑作する所多しといふ、即ち當時に於ける蝦夷地農業の趨勢も窺ふべし。而して本時代全島中に於て栽培せられたる作物の品種を擧ぐれば次の如くである。

稻(粳・糯)・粟・稗・麥・蕎麥・大豆・小豆・隠元豆・赤豆・黍・菘・菘・菜・蘿菔(大根)・蘿苣(蘿蔔?)
菜菔(菜菔の誤?)・人参・蕪菁・菜・菘・葱・韭・牛蒡・胡瓜・甜瓜(メロン)・甘瓜・菓瓜・西瓜・南瓜・茄子・菜菔・馬鈴薯(瓜吧芋)・薯蕷・雜穀・麻・煙草。

第十期 本島中央以南田作出現時代(安政四年以降)
(約十年間)

福山城下

西南和入地 || 五勝手・小黑部(泊村筋陸)

西南蝦夷地 || 「幌似・發足」(岩内場所内)・「琴似・篠路」(札幌近在)。

南和入地 || 箱館・吉田(箱館近在)・「鶴野・桔梗」(箱館筋陸)・下湯ノ川・山崎。

南蝦夷地 || フレナイ(虻田場所中)。

以上の田作は勿論前期に引續ける畑作の状態以外として特色づけらるべき現象となす。即ち以上の十期である。

四 年代的發展の批判

惟んみるに明治維新前に於ける北海道の耕作は何時頃より行はれたるか。松前藩祖武田信廣が渡來せし享徳三年頃の狀態を以てすれば漸く内地より年に時折來れる商船が搭載せる蔬菜を以て其用を辨ずるの有様なれば當時

島民の耕作如何は亦之を以ても察するを得べく、越えて天正十六年近江の人建部七郎右衛門なる者蔬菜種子を行商に來りしと云へば幾分當時に於て作付が試みられしと想像されざるにも非ずとすべきも其記録として未だ發見するを得ない、又行商を俟つての耕作より推量せば例ひ耕作は行はれ居たりとしても、其程度は如何に初發時代の相なるかを如實に裏書きされる譯である。漸く耕作らしき耕作が行はるゝやうになりしは後代寛文九年に近き頃の粟作と思はれるが然し兎も角記録に遺る耕作の嚆矢としては先づ上記の如く慶長十八年（又は元和）より寶曆七年迄の間に龜田に現はれし畑作を指さなければならぬであらう。之を以て標準とするならば本道農業は少くも記録に現はれしものを以てすれば明治以前既に二百數十年來の歴史を有するといふことが解せられる。今此龜田地方の畑作を出發點とし以上の年代區分を發展的に考察するならば先づ初代慶長（又は元和より寶曆七年迄の間）より延寶中の約八十年間（又は約六十年間）が畑作時代として出現し、次期が田作の貞享より元祿の約十五年間であるから田作の出現期は畑作に對し第二位の時代順である、第三期の寶永より享保初年迄の約十年間は畑作は本島中央以南の海岸村落・部落迄に行互れる時代でありかくして文化より安政に至る約五十年間に涉つて全島（勿論殆ど）の畑作普及を見たるが此間和人にせよ蝦夷地にせよ南海岸地方は西海岸地方に比し常に優勢を示しつゝ展開を進め來れるを思はしむ。

斯くして畑耕作地の數及び栽培作物の種類の數は年代を重ねるにつれて大體の増加發展を示したるが、田作に在つては之と異り一進一退あり、文化度以前に於ては田作ならざる時代は先づ田作は行はれ居ざるものと見るべく、文化度以後に於ては箱館近在に多少其繼續がなされつゝ安政三年以降の廣汎地域點在に維新前本道農業の括りをつけて明治を迎へたと解すべきである。而して總じて畑作は本島南方地方に多く現はれ北方に至るに従ひて薄く、田作は和人地特に箱館筋近在に常に多くを見、蝦夷地は殆ど點在的に過ぎず、田作は興廢常なきが如くなれど畑作は常に全島に行互りつゝありしと見らる。

本稿は發展的考察なりとはいへ、本道農業全般よりしての發展を見んとしたるには非ずして單に本道農業内容の一部分たる耕種現象のみを捉へ、而も之が發展的年代を如何に區分づけられ得るやといふことのみを以ての考察なれば他の一般農業發展上に觀察せねばならぬ諸要素諸關係は全く之を除外した考察であり従つて以上の發展に就きての史的聯關或は史的發展關係等に關しては全く言及しなかつた、故に上述の發展時代區分が果して本道農業全體より觀た發展時代區分と合致するや否やは論外に置かねばならぬといふことを爰に一言する。又固より本時代區分を以て完全無缺のものとするのではないから不備の點は他日に俟つこととするのも勿論である。尙本道農業全體に關する發展史に就いては近々又他の機會に於て發表したいと思つてゐる。(昭和十四年一月十六日)